

日本語方言における連体と終止

佐々木冠（立命館大学）

1. はじめに

古典語にあった連体と終止の形式的な対立は、中央方言においては形容動詞と名詞述語を除いて失われており、連体形が終止形を駆逐したかたちになっている。連体と終止の形式的対立が完全に失われている方言も存在する。工藤(2004)によれば、宇和島方言と青森方言では形容動詞が主節末に立つときの形式と名詞を修飾する位置にあるときの形式が同形である。標準語の形容動詞の終止形に対応する要素が採用されたか連体形に対応する要素が採用されたかでは違いがあるものの、連体と終止の形式的対立の消失が全ての用言に及んでいる点でこれらの方言は共通している。

表 1. 形容動詞における終止・連体の対立の消失

	主節末	名詞修飾
宇和島方言	太郎元気な	元気な太郎
青森諸方言	太郎元気だ	元気だ太郎

古典語の終止形が形式としては残存する方言も存在する。茨城県南西部で話されている水海道方言では、変格活用動詞において古典語の終止形と同形の/su/および/ku/が存在する。これらの形式は終止の機能を失い被覆形の一つとなっており、推量接尾辞のホストとして機能している（su-bee「するだろう」、ku-bee「くるだろう」）。古典語の終止形に由来する形式は存在していても、すでに連体と対立する終止としての機能は失っている。

連体形が終止形を駆逐する傾向は本地方言のほとんどで見られる現象だが、新しく終止専用の述語形式が生じている方言もある。東日本の方言で用いられている回想過去の「ケ」や推量の「ベ（-）／ペ」が付属した述語は連体修飾節に現れることがなく、もっぱら主節および副詞節の述部に現れる（後述するように「ケ」には例外がある）。「ケ」および「ベ／ペ」に対応する古典語の形式は「ケリ」および「ベシ」であり、ともに連体形を持ち、連体修飾節の述部に用いることができた。これらの形式が現代の方言において連体修飾節の述語として用いられなくなったのは、活用の消失によるものではないと考えられる。標準語の「だろう」のように連体形を持たない形式でも連体修飾節の述語の一部として用いられるものがあるからである。

本発表では、「ケ」および「ベ／ペ」が付属した述語が連体修飾用法を欠く方言では連体修飾構造のあり方が標準語のそれとは異なる可能性を示唆する分析を提案する。具体的には、連体修飾構造に関して、認識モダリティ形式が現れ得る統語構造（南 1974 の C）の方言と時制表現までの出現しか許さない統語構造（B）の方言が存在する可能性を示唆する。

2. 「けり」と「べし」

本発表で考察の対象とする日本語方言の「ケ」と「ベ・ペ」は古典語の「けり」「べし」から生じた要素である。「けり」「べし」はともに古典語で連体形と終止形が形式的に対立しており、連体修飾節の述部に現れることができる要素であった。

(1) 終止形：べし

深草は誰も心にしげりつつ浅茅が原の露と消ぬべし（蜻蛉日記、卷末歌集）

(2) 連体形：べき

かかる御文見るべき人もなしと聞こえよ（源氏物語、帚木）

(3) 終止形：けり

新しき年ともいはずふるものはふりぬる人の涙なりけり（源氏物語、葵）

(4) 連体形：ける

北の方も、母君を憎しと思ひきこえたまひける心もうせて、（源氏物語、若紫）

一方、現代の日本語方言の「ケ」と「ベ・ペ」は連体と終止の形式上の対立を持たず、連体修飾節には現れない要素である。ただし、「ケ」に関しては後述するように連体修飾節に現れる場合がある。

3. 「け」に関する先行研究

日本語方言の「ケ」がどのような構造に現れ得るかについては、すでに先行研究がある。渋谷(2014)にまとめられた「ケ」の分布に関する表は、本発表で主に考察の対象とする「ベ・ペ」の分布を考える上でも参考になるものである。以下に渋谷(2014)を概観する。

「ケ」がモーダルな意味しか表さない東京方言では「ケ」は連体修飾節の述部に現れることがない。一方、「ケ」が過去時制を表す接尾辞になっている静岡県方言では「ケ」が連体修飾節の述部に現れる。静岡県焼津市方言を分析した中田(1979)は、同方言の「タ」が完了で、「ケ」が過去であるとしている。「ケ」は現在の時点とは隔絶した過去の時間に起きた出来事を表すのに対し、「タ」は過去に実現した動作・作用の状態が現在まで継続していることを表す。この区別は東北地方に見られる「タ」と「タッタ」の意味特徴と並行的である。

静岡県方言のデータは、時制を表す要素であれば、ル(イ)形・タ形以外でも連体修飾節の述部になることができることを示すものと考えられる。

表 2. 各地方言のケの特徴 (渋谷 2014: 126)

		東京方言	江戸語	鶴岡方言	山形市方言	静岡県方言	
上 接 語	動き動詞	タ形	タ形	ル形・タ形	ル形・タ形	連用形・タ形	
	イル	タ形	タ形	ル形・タ形	ル形・タ形	連用形(タ形?)	
	アル	タ形	タ形	ル形	ル形	連用形(タ形?)	
	形容詞	(基本形)タ形	タ形	基本形	基本形	基本形	
	形容動詞	基本形・タ形	基本形	基本形	基本形	基本形	
意 味 ・ 用 法	基 本	動き動詞	思い出し	思い出し・報告	思い出し・報告	思い出し・報告	過去(回想)
		状態用言	思い出し	思い出し・報告・過去	思い出し・報告・過去	思い出し・報告・過去	過去(回想)
派 生	派 生	危惧的思い出し	-	?	?	○	○
		仮想	-	○	-	○	○
		感情移入	-	○	?	○	?
構 文	ヨの下接		-	○	○	○	○
	理由節内の使用		-	○	○	○	○
	連 体 節	動き動詞	-	?	-	-	○
		状態用言	-	?	-	(○)	○

以下の静岡県駿河地方方言の例は新村(1901)より引用したものである。連体修飾節を表すブラケットは発表者が付けた。状態用言(11), (12)だけでなく動作動詞・変化動詞の場合でも連体修飾構造の述部に「ケ」が付く構造が可能である。

- (5) [行ッタツケ]時
- (6) [言ッタツケ]モノー
- (7) [見タツケ]人
- (8) [行キヤシタツケ]時
- (9) [言イヤシタツケ]モノー

- (10) [見ヤシタツケ]人
- (11) [サミーツケ]時
- (12) [エーツケ]者

これに対し、山形市方言では状態用言に「ケ」が附属する場合、過去を表し、「ケ」の付いた述語が連体修飾構造に出現できる。ただし、動作・変化動詞に「ケ」が附属する場合、「ケ」の付いた述語は連体修飾構造に現れることができない。この場合「ケ」はもっぱら思い出し・報告といったモーダルな意味を表す。以下の山形市方言の例は渋谷(1999)より引用したものである。

- (13) そこにアツケのは全部もってきた
- (14) きのうイソガシカツケ人は手をあげなさい
- (15) きのうそこにイダ／イダケのだれだ？
- (16) 宿題をシタ／*シタケ人を先生に知らせた

なお、鶴岡方言の「ケ」は山形市方言と意味的な特徴が同じだが、連体修飾構造には現れない。過去時制を表すことは「ケ」が連体修飾構造に現れる必要条件ではあっても十分条件ではない。

回想というモーダルな意味を表す用法を持つ要素が過去時制を表す場合、連体修飾節の述部に現れる現象は「ケ」以外にも存在する。竹田(2000)によると、盛岡市方言の接尾辞「タッタ」は、発話時において結果が残存していない出来事を表すとともに回想というモーダルな意味をも持つ要素である。『方言文法全国地図』第188図は「昔、二人で祭りに行ったなあ」に対応する表現として盛岡市で{イッタツケナー／エッタッタナー}の両方の言い方があることを示している。このうち「ケ」を含む表現は連体修飾節に出現することができないが、「タッタ」を含む表現は連体修飾節に現れ得る。以下の例文は竹田晃子氏に確認したものである。

- (17) *昔、二人でイッタツケ祭り
- (18) 昔、二人でエッタッタ祭り

この節で紹介した先行研究とデータからわかるのは、連体修飾節の述部に時制を表す接尾辞が現れることを許す方言において、モーダルな意味だけを表す要素が連体修飾節の述部に現れることができない場合があることである。これは、「べ・ぺ」の文中での分布を考える上でも重要と思われる。

4. 「だろう」と「べ・ぺ」

この節では、「べ・ぺ」に対応する標準語の要素である「だろう」を含む連体修飾構造の先行研究を概観した上で、方言における「べ・ぺ」の分布について考察する。

4.1. 先行研究に見られる連体修飾節に現れる「だろう」の評価のゆれ

連体修飾節の述部に「だろう」が現れる構造は、研究者によって文法性の判断に揺れがある。連体修飾節に「だろう」が現れる構造を全く問題のないものとして扱う研究者がいる一方で、非文法的ではないものの落ち着きの悪い表現と見なす研究者もいる。なお、南(1974)は連体修飾節に「だろう」が現れる構造を扱っていないが、「C のものは原則として連体修飾語の一部になることが出来ない」(南 1974: 127) と述べているので、連体修飾節に「だろう」が現れることはないと思なしていると考えて良いだろう。

表 3. 連体修飾節に現れるダロウの文法性判断

判断	研究者
○	上田(2007)、大島(2010)
?	井上(2007)、神澤(2012)

大島(2015)は連体修飾節の述部に現れ得る要素が推量(「だろう」のその一つ)までであるとして、以下の例文を文法的なものとして提示している。上田(2007)も推量を含む認識モダリティ形式までが連体修飾節の述部に現れ得るとしている。

(19) 大川さんが借りているだろうお金

(19)のような構造は理論構築のために文法家が作り上げただけのものなのか、それとも実際に用例があるのか、コーパスを使って検証する。

4.2. コーパスに現れた「だろう」連体修飾節

「現代日本語書き言葉均衡コーパス」と「話し言葉コーパス」を使って連体修飾節に「だろう」が現れる例を検索した。

(20) 現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)

「だろう」+名詞 : 263 件

(21) 話し言葉コーパス (CSJ)

「だろう」+名詞：0件

13件ヒットするが、動詞または形容詞に「だろう」が付いた述語が被修飾名詞に前節する構造ではない。「何だろう」「なんていうんだろう」のような挿入的な語句の例のみ。

連体修飾構造に「だろう」が現れる構造は、書き言葉コーパスには存在するが、話し言葉コーパスには存在しなかった。書き言葉に偏っているようであるが、動詞または形容詞に「だろう」が付いた述語が連体修飾構造に現れる例は実際に存在する。なお、ここでは例を示さないが、「だろう」および関西方言の「やろう」が連体修飾構造に現れる文は、インターネット上には存在する（関西方言については後述）。

次節では既存の方言資料に存在する「べ・ぺ」の用例を検証する。

4.3. 方言における「べ・ぺ」の分布

以下の表は、国立国語研究所のウェブサイトで公開されている『方言談話資料』の中に現れる「べ・ぺ」の個数を数えたものである。「と」あるいはそれに対応する助詞によって導かれる引用節に現れる「べ・ぺ」の数は主節末に現れる「べ・ぺ」に含めた。副詞節に現れる場合、理由を表す節と逆接の節に限られており、条件節に「べ・ぺ」が出現した例はなかった。

表 4. 『国立国語研究所資料集 10 方言談話資料』に現れる「べ・ぺ」

	主節末	副詞節	連体修飾節
青森県	51	0	0
岩手県	91	5	0
宮城県	24	4	0
山形県	70	2	0
群馬県	64	0	0
千葉県	17	3	0

以下に、宮城県の談話資料から副詞節に「べ・ぺ」が出現した例を示す。

(22) ハルサーンツテ アズクガラ オメアラ { } バガニ スナガラ

「春さーん」って あそこから お前たちが [おれを] からかいながら

ハンカズ フツタンダべケンド (B 《笑》) ハンカズ

ハンカチを 振ったようだったけど (B 《笑》) [若い女性に] ハンカチを

フラレツート アダマサ キタモンダオンナー (B 《笑》)
 振られるという と 頭が カーッと なって [目が] くるくるとして (B 《笑》)
 メサギ マックラニ ナルモンダオン
 目の前が まっ暗に なるものな。

- (23) アレ スット ニダヨーナ ベントーモ アッペカラ トッテ
 そうすると、 似たような 弁当も あるだろうから [他人の弁当を] 取って
 コー フタ アゲンダベー { } ホノウズ ホー ンメァーモノ アッタド
 こう 蓋を 開けるんだろうな そのうち おう うまい物が 有ったぞ
 [ということ]。

茨城県の方言についても検証するため、『土』の会話部分に現れる「ベ・ペ」を数えた。
 『土』は1910年に朝日新聞に連載された長塚節の小説で、その会話部分は茨城県南西部の
 伝統方言を反映しているものと考えられている。小説の舞台は旧・石下町である。石下町は
 2006年に水海道市と合併し、現在は常総市の一部を構成する。

『方言談話資料』と同様のデータが得られた。すなわち、ほとんどの例が主節末に集中し
 ており、副詞節で「ベ・ペ」が用いられることがあるが、理由を表す節と逆接の節に限られ
 ており、条件節に「ベ・ペ」が出現した例はなかった。また、連体修飾節の述語に「ベ・ペ」
 が用いられる例は見つけることができなかった。

表5. 『土』に現れた「ベ・ペ」

主節末	副詞節	連体修飾節
201	8	0

以下に『土』から用例を示す。標準語訳は発表者によるものである。

(24) 主節末の例

よきげ此煮てやつぺか、砂糖でも入(せえ)たら佳味(うま)かつぺな
 よきち(人名)にこれをにてやろうか。砂糖でも入れたら美味いだろうな。

(25) 副詞節(逆接)の例

五合位(ぐれえ)へえつけべが、俺ら呼吸(えき)つかずだ
 五合ぐらい入ったが、俺は息をつかず(に飲んだの)だ

(26) 副詞節(理由)の例

尤も此位(このぐれえ)ぢや旦那も大目に見てくれべえから心配はあんめえがなよ
 もっともこれくらいでは旦那も大目に見てくれるだろうから心配はないだろうがなあ。

4.4. 「だろう」連体修飾節の東北方言への逐語訳

既存の方言資料に存在しないことは、その形式が「あまり用いられない傾向がある」ことは示しても、その形式が非文法的であることを確証させるわけではない。「ベ・ペ」が連体修飾構造に現れないことを確証するためには母語話者に確認する必要がある。

現代日本語書き言葉均衡コーパスで検索した以下の例文を改編するかたちで二つの東北方言で「ベ・ペ」に関する母語話者の内省を確認した。

- (27) 家族のコメントをもらうため、きっと読みたくはないだろう手紙を読んでもらおうとした。『報道される側の人権』

仙台方言の例文は発表者によるもの、津軽方言の例文は大槻知世氏によるものである。なお、以下の例文で最初にカッコつきで示されているのが、対応する標準語訳である。

- (28) 「読みたくないだろう。」(主節)

(29) 仙台：ソノ テカ° ミ ヨミダグ ネーベ

(30) 津軽：ソノ テカ° ミ ヨミテグ ネベ

- (31) 「読みたくないだろうけれど、その手紙を読んできて。」(副詞節)

(32) 仙台：ヨミダグ ネーベゲド ソノ テカ° ミ ヨンデケロ

(33) 津軽：ヨミテグ ネベケド ソノ テカ° ミ ヨンデケ

- (34) 「読みたくないだろう手紙を読んでもらおうとした。」(連体修飾節)

(35) 仙台：ヨミダグ ネー テカ° ミ ヨンデ モラウベツツゴドニ シタ

(36) 津軽：ヨミテグ ネ テカ° ミ ヨンデ モラルベズ ゴトニシタ

主節と副詞節では「だろう」を「ベ・ペ」に置き換えることができるが、連体修飾節では「だろう」を置き換えることができない。標準語の文と同じ内容を表す際には、「だろう」に対応する要素を訳さない。連体修飾構造で「だろう」のある場所に「ベ・ペ」を配置すると容認不可能な文になる。したがって、「だろう」が連体修飾構造に現れる文は、これらの方言では逐語訳ができないことになる。

4.5. 連体修飾構造の地域差

上田(2007)は、モダリティ表現の分布やその人称制限を分析することを通して、認識モダリティ形式 (E(pistemic)-modal) と発話伝達モダリティ形式 (U(terance)-modal) が異なる位置に生成される下記の統語構造を提案し、主文は U-modalP を持つが、埋め込み文構造は U-modalP を欠き E-modalP までしか持たないとする分析を提案した。

|-----主文-----|
 (37) [[[...]TP]E-modalP]UmodalP
 |---埋め込み文---|

南(1974)の階層的統語表示をまとめいくつかの修正を加えた田窪(1987)によれば、南の A, B, C, D の各段階は(38)に示す統語範疇と意味タイプを表すという。(38)の判断には認識モダリティが含まれ、伝達には発話伝達モダリティが含まれる。上田(2007)の分析を南、田窪の階層的統語表示で読み替えたものが、(39)である。

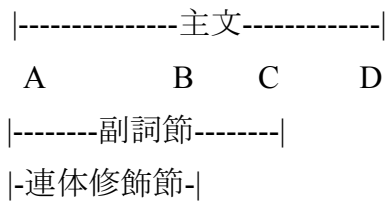
(38) A=動詞句 動作
 B=節 事態
 C=主節 判断
 D=発話 伝達

|-----主文-----|
 (39) A B C D
 |--埋め込み文--|

副詞節には「ながら」で導かれる A 類のものから「が」「から」で導かれる C 類のものまで存在するが、D 類のものは存在しない。連体修飾節に関して南(1974)は B 段階までの構造しかないものと考えているが、実際には C 類の要素である推量の「だろう」を含む構造が存在する。埋め込み文、すなわち副詞節と連体修飾節が C 類までの構造を持つとする上田の分析は標準語の分析として妥当と考えられる。

上田(2007)の分析は、「だろう」のような認識モダリティ形式が副詞節と連体修飾節の両方に出現できる標準語のような体系の説明に役立つものと考えられる。一方、これまでに検証した東北方言（関東地方の方言も含むものとする）のように認識モダリティ形式「べ・ぺ」が副詞節には現れても連体修飾節には現れない体系では、一部修正が必要となる。具体的には、埋め込み構造の下位分類が必要になる。逆接と理由の副詞節に関しては東北方言でも推量の「べ・ぺ」が現れ得る。(22)-(23)および(25)-(26)で示した副詞節は意味的に C 類の副詞節である。したがって、埋め込み文の中でも副詞節は C 類までの構造を持つものと考えられる。一方、連体修飾節には時制を表す要素は出現するが、「べ・ぺ」は現れないので、B 類までの構造しか存在しないものと考えられる。これを図式化したものが、(40)である。

(40) 東北方言の文構造



本発表の分析では、東北地方の方言で「べ・ぺ」が連体修飾節に現れないのは、連体修飾節の統語的なサイズが標準語とは異なるからということになる。

「けり」「べし」に由来する現代方言の形式が連体修飾節に現れない理由として、これらの形式が連体・終止の形式的区別を失ったことに求める考えもあるかもしれない。しかし、そのような考え方では、静岡県方言の「ケ」が連体修飾節に現れることを説明できないだけでなく、標準語の「だろう」の分布も説明できない。「だろう」は連体・終止の形式的区別がないにもかかわらず、連体修飾構造に出現可能である。連体・終止の形式的区別の消失によって「ケ」「べ・ぺ」の分布を説明することは困難と考えられる。

5. まとめ

東日本の多くの方言において「ケ」および「べ・ぺ」が付いた述語形式は連体修飾構造に現れない。これらの形式が「終止」的であるのは、これらの要素が用いられる方言の連体修飾節の統語的なサイズが標準語とは異なるからであるとする分析を本発表では提案した。

現代日本語の方言において標準語と同様のサイズの連体修飾節をもつ方言は存在するだろうか。「だろう」に対応する関西方言の「ヤロウ」をインターネットで検索すると「ヤロウ+名詞」という構造を持つ文を拾うことができる。(41)-(42)の例文を不自然に感じる関西方言話者もいる一方で、ごく自然な文と判断する関西方言話者もいる。いずれにせよ、東北方言で「べ・ぺ」が出現する連体修飾構造と比べると「ヤロウ」が出現する連体修飾構造は許容される傾向にある。

(41) 45歳で、双子の出産で、しかも帝王切開とか・・・。

これだけで、相当な難産やったやろうことは容易に想像がつくしきつとわいら男からしてみれば、想像もできひんくらいしんどかったんやろうなあ。

<http://joshiana-makes-me-happy.com/nhk/871>

(42) 整体のお部屋にも移動して腹筋、背筋のやり方とかもホンマはお金払わなあかんやろうことをどんどん教えてくれはって～～

<https://ameblo.jp/amanenchu/entry-12299581150.html>

各地の方言の連体修飾節のサイズについては、今後の調査によって明らかにする必要がある。B 段階までの連体修飾構造をもつ方言と C 段階までの連体修飾構造をもつ方言の地域的な分布を明らかにしていきたい。

本発表の分析にはいくつか検証すべき課題が残されている。推量以外のモダリティ要素の分布も検証する必要がある。また、推量にしても文末の表現を調べただけであり、福祉的な要素によって水量が表される場合にそれが連体修飾構造に出現できるか否か、各方言について確認する必要がある。また、各方言について同じだけのデータをとった訳ではない。文法性チェックを行っていない方言もある。データの均質化も必要である。

謝辞

本発表の準備段階で相談に乗っていただいた大槻知世氏、竹田晃子氏、廣田恵美子氏、山村貴美子氏、脇坂美和子氏に感謝する。

参考文献

- 井上和子(2007)「日本語のモーダルの特徴再考」『日本語の主文現象』長谷川信子編. 227-260. ひつじ書房.
- 上田由紀子(2007)「日本語のモダリティの統語構造と人称制限」『日本語の主文現象』長谷川信子編. 261-294. ひつじ書房.
- 大島資生(2010)『日本語連体修飾節構造の研究』ひつじ書房.
- 神澤克徳(2012)「モダリティ要素を含む連体修飾節の分析：認知文法におけるグラウンドの観点から」『言語科学論集』18. 47-66.
- 工藤真由美(2004)「調査と研究成果の概要」『日本語形容詞の文法』工藤真由美編. 6-52. ひつじ書房.
- 渋谷勝己(1999)「文末詞「ケ」：三つの体系における対照研究」『近代語研究』10. 205-230.
- 渋谷勝己(2014)「方言研究と通言語的研究」『日本語学と通言語的研究との対話』定延利之編. 97-145. くろしお出版.
- 新村出(1971) (初出は 1901)「語学涓滴」『新村出全集第 1 巻』217-223. 筑摩書房.
- 田窪行則(1987)「統語構造と文脈情報」『日本語学』6. 37-48.
- 竹田晃子 (2000)「岩手県盛岡市方言におけるタツタ形の意味用法」『国語学研究』39. 32-43.
- 中田敏夫(1979)「静岡市焼津市方言の過去表現」『日本語研究』2. 122-128.
- 南不二男(1974)『現代日本語の構造』大修館書店.

k-sasaki@fc.ritsumei.ac.jp